

“創立 60 周年記念祝典”

待望の『創立 60 周年記念祝典』が成功裏に終了!!

これほど盛大に挙行できようとは!

その場所は、古くよき時代の文人墨客たちが愛した浅草は『雷おこし本舗ゴロゴロ会館』で。「銭形平次」の野村胡堂先生が昭和 24 年 7 月 7 日に発足した日本作家クラブの『創立 60 周年記念祝典』が 11 月 20 日(金)につつがなく、いや大変な盛り上がりを見せて終了した。

祝典当日は会員全ての願いがかなってか、前日までの雨が嘘のような快晴に恵まれ、役員たちで浅草寺内の記念碑(半七塚)の清掃と拓本取り、祈禱をした後、記念講演が午後 4 時 20 分から始まった。

会場となった 5 階劇場は、325 席がほぼ満員となる盛況ぶり。元テレビ朝日アナウンス部長の高井正憲氏の司会により幕を上げた。

まず 10 月 1 日に急逝した若山三郎前理事長に代わって、新理事長に選出された吉村卓三の挨拶に始まり、和泉流の和泉元彌家元が狂言「棒縛」を披露。

続いて昨年 of 日本琵琶コンクールで優勝した櫻井亜木子さんが「那須与一」を演奏し、このなかなか聴くことのできない貴重な体験に場内はいやが上にも盛り上がった。

さらに落語の林家木久扇師匠、マルチタレントの世志凡太氏、浅香流演劇舞踊の浅香光代家元ら多彩なゲストが独特の芸を披露し、最後の取りは「フェアブルの昆虫記」の訳者で知られる仏文学者・奥本大三郎先生。おいそれと聴けない蘊蓄ある記念講演で第 1 部を締めくくった。

引き続き、170 名余がゴロゴロ会館 3 階へ移って祝宴に。一同は同館名物の和食に飲み放題という趣向に舌鼓を打ち、くたくたくと歓談をする。岩手県から野村胡堂・あらえびす記念館の野村晴一館長夫妻がご来駕くださり、また九州福岡から見えた 103 歳児の昇地三郎先生は演壇で「黒田節」を舞ってくださるなど、目を見張り耳をそばだてる一幕も多々あった。

これも日本作家クラブならであろう。ほかにもマスコミ 13 社をはじめ評議員や顧問、名誉理事や名誉会員など多士済々の来賓が顔をそろえ、クラブ全員が混然一体となって 60 年もの長き歳月を祝った。みんな、大々満足であったろう。

これほどの成功は、私ども主催者側でも予測しなかったこと!

末筆ながら、ご協賛くださった(株)常盤堂雷おこし本舗、(株)浅草花やしき、またご協力をいただいた(株)オールコーポレーションや(株)市橋プロモーション、それに過分なお力添えを頂戴した企業および個人の各位に心からの謝意を表しておこう。(高橋克典 記)